



新地町沿岸部の様子 (2011年5月17日)

### 新しい地で関わりのスタート

新地町は福島県と宮城県のちょうど県境にある沿岸部の町で、人口は8,387人(3月1日現在)。3月11日の地震と津波によって100名以上の方々のいのちが失われ、いまも24名の方の行方がわかっていません。

日本YWCAは、この新地町の方々に寄り添う活動をしていこうと、新地町災害ボランティアセンターに全国からYWCAメンバーを送っています。神戸YWCAからも5月16日から26日まで、被災者支援プログラム担当者(西本)が新地での活動に参加しました。

活動の合間に津波被害のあった沿岸部を歩くと、

家の土台だけ残して、文字通り何も残されてはいません。本当に声もありませんでした。



神戸YWCAは、これからも東日本大震災の被災者の方々への応援を続けてまいります。そして特に、地震、津波、放射能被害と闘う福島の方々と共に歩ませていただきたいと願っています。福島YWCAの方々と協働し、福島の方々の声を聴かせていただきながら、神戸でなければできないことをさせていただきたいです。

「いっしょにいぐべ(一緒に歩もう)東北!」これからもよろしく願いいたします。(西本)

## ■ 4月以降の神戸YWCAの活動■

### <4月>

- ・ 4月19日～21日：仙台YWCAと福島YWCAを訪問（寺内、西本）。
- ・ 4月27日～5月4日：宮城県仙台市を中心に活動する協力団体「東北ヘルプ」にて事務局支援（西本）。
- ・ 神戸市のジェットミックス社から竹炭マスク（6000枚）、竹炭寝具（枕100個、マット50個）をご寄贈いただき、早速福島YWCAにおつなぎしたところ、竹炭製品は福島では大好評！マスクは市内の小学校へ、寝具類は市内のご家族および飯館村の方々にお渡しすることができました。

### <5月>

- ・ 5月2日～5日、神戸YWCAから2名のスタッフ（寺内、住田）が福島を訪問。新地町でボランティア活動に参加すると共に、

福島YWCAの方々とお会いし、福島の声を聴きました。

- ・ 5月16日～26日：新地町の災害ボランティアセンターにてコーディネーターの一員として活動（西本）。福島YWCAの運営委員会にも同席させていただき、神戸との今後の関わりの可能性を探りました。

- ・ 日本YWCAは、被災者支援プログラムを「避難者受け入れ場所の支援」「心のケア」「福島県新地町の災害ボランティアセンター支援」を柱として展開しています。

神戸YWCAの寺内総幹事とスタッフ西本は、日本YWCAの被災者支援プログラムメンバーの一員として、特に「避難者受け入れ場所提供」を担当しています。

## これからもよろしくお願いいたします

★ 神戸YWCAでは、福島YWCAと協働して福島の生産者の方々に応援すべく、**福島のお米と果樹&野菜のジュース**などを取り扱っています。ご協力ください～！

★ 「この夏、数週間であっても県外に子どもたちを避難させたい」。そんな福島のお母さんたちの声が増大しています。全国の地域YWCAでは、ゆっくり安心して滞在できる「**ひと夏のマイ・セカンドハウス**」を準備中です。ぜひ神戸でも、福島の方々をお迎えしたいと願っています。**ホームステイ、お部屋のご提供をいただけます方がいらっしやいましたらご連絡ください**（担当：西本）。

★ 宮城県仙台市の協力団体「東北ヘルプ」の事務局支援（6月末まで）、および福島県新地町でのボランティア活動に関心のある方はご連絡ください（担当：西本）。

引き続き、募金も受付中です。

郵便振替 01100-0-10298

神戸基督教女子青年会

\* 「東日本大震災被災者支援」とご明記ください。

